

## 基本目標 I 創造する力と生きる力、感性豊かな子どもを育む

## I-1. 就学前の子どもたちが文化に触れる機会の重点的な創出

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)		
1	30	子育て施設課 人形劇の実施	I-1								各所で活動している人形劇による、保育所11園および総合通園センターでの人形劇鑑賞。演目は「おひさま劇場」から2題(総合通園センターは1題)で、文化性の高い内容のもの。各保育所等で上演することで、子どもたちに鑑賞機会を提供する。	・行事や感染症の流行期と重ならないように実施時期の調整が必要。 ・実施劇団の選定。	就学前の子どもたちが文化に触れる機会の提供継続に努める。 ※平成31年度より保育所のみで継続実施予定。												なし	人形劇団クラルテ	996	子どもたちに生のお話を肌で感じてもらえるよい機会である。事業の運営に関しては、所長代理会にて協議しながら協働団体と内容等を決めている。	A			○	
2	30	文化国際課 きしわだアートプロジェクト 就学前児童へのアウトリーチ事業	I-1	I-2							アウトリーチ事業として、就学前の幼児が所属する施設にアーティストを派遣し、参加体験型の演劇ワークショップを実施。演劇の表現者が、子ども達の豊かな想像力を引き出し、アートに触れる感動や喜びを体験してもらう。市立保育所6か所(参加者人数:148人)	実施劇団の選定及び受け入れ先と劇団との調整。	就学前児童の豊かな発想を伸ばしていくプログラムを提供していく。	○	○											毛帽子事務所	956	今年度は6保育所に増えたが、昨年と同じ劇団が担当することで昨年の経験を活かし、さらにブラッシュアップしたワークショップを実施できた。今後とも継続するとともに内容を充実させ、定着させたい。	A			○	
3	30	図書館 読書活動事業	I-1	I-3	I-4					○	4か月児を対象に、絵本や子育てに関する情報をブックスタートセットとして配付している。市民団体と協働で、市内各図書館において、お話を実施している。また、市内小学校のうち22校を訪問し、お話配達を実施した。	スマートフォン等のモバイル機器の普及により、子どもがその年齢にふさわしい物語に読み浸る余裕がなくなっている。	子どもが読書に親しみきっかけとなるよう、今後も、ブックスタート事業、市内各図書館におけるお話し会、市内小学校へのお話配達を続けていく。	○	○	○	○									健康推進課、子育て施設課	岸和田市子ども文庫連絡会、図書館ボランティア「だっこ」等	1,967	ブックスタート事業、お話し会、お話配達を実施することにより、子どもの健やかな成長に欠かせない、読書に親しみ環境づくりにつながっている。	A			○

## I-2. 子どもたちに対する文化プログラムの充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続					
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)				
4	30	生涯学習課 子どもの居場所教室事業(図工)	I-2								常盤地区公民館を利用し、長期の休み以外の毎週土曜日(第4土曜日は休講)2時間程度、図工教室を開講している。	継続的な指導者の確保。	子ども一人ひとりに感受性や社会性が身につくと感じられるような教室を目指す。	○	○	○										296	子どもが感受性や社会性を学ぶ場となっている。	A			○				
5	30	生涯学習課 少年教室事業(ジュニアオーケストラ・陶芸)	I-2								子どもたちが余暇に、文化活動を通じて、仲間づくりと併せて友情を育み、豊かな心を養うことを目的に、少年教室を開講している。陶芸・ジュニアオーケストラを市立公民館で、長期の休み以外の毎週土曜日に2時間程度開講している。	公民館講座など、類似の活動との調整が必要。	子ども一人ひとりに感受性や社会性が身につくと感じられるような教室を目指す。	○	○	○	○									793	学校外で継続的に取り組める文化活動の機会として重要である。また、異年齢交流の中で、人への思いやりやコミュニケーション力が培われている。	A			○				
6	30	図書館 自動車文庫事業	I-2	I-3							図書館から距離のある地域に21ステーションを設け、移動図書館車で出向き、資料の貸出し、返却等の業務を行っている。また、蔵書の限られたチビッコホーム39か所、公共施設12か所には毎月、幼稚園13か所・保育所等12か所には年3回配本を行い、その充実を図っている。	ステーションの中には利用の少ないところがある。移動図書館車が老朽化しつつある。	利用向上のため、中期的には、ステーションの見直しを図る。	○											なし	なし	14,632	図書館から距離があり、図書館に行くことが困難な市民に読書の機会を提供している。	A			○			
7	30	生涯学習課 公民館親子文庫事業	I-2	I-3							読書を通じた親子、子ども同士がふれあいを深めるとともに、公民館活動の振興、充実をはかるため光陽、城北、光明の3地区公民館で開催。(新条地区公民館では市事業ではなくボランティアで開催されている)概ね週1回程度、1館あたり年間40回程度実施。図書の貸し出しや、読書会などに留まらず、お楽しみ会や、クリスマス会等の年間行事を各文庫で企画運営している。	子どもの読書離れについて。後任のボランティアスタッフの発掘。	文庫間の交流の機会を持ち、運営にあたって、効果的な取り組みなどの共有を図る。	○													・光陽おやこ文庫 ・城北おやこ文庫 ・光明とんぼ文庫	185	地域に密着した形で運営がなされ、子どもたちの居場所として定着しつつある。また、地域の公民館でこの事業を行うことにより、図書館まで足を運ぶのが難しい子どもに対する読書習慣の定着に効果がある。	A			○		
8	30	八木市民センター 学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7						【定期講座】子ども書道(硬筆)(20名)、子ども書道(毛筆)(20名)、ジュニアアトリエパレット(21名)、初心者ギター教室(20名)、きつぷりイングリッシュ(14名)という5つの1年単位の講座を行った。 【公民館まつり】八木地区公民館の登録クラブ、女性学級、定期講座、自主学習グループの方が職員と協力して準備・運営を行った。 【その他】短期講座、高齢者大学、女性学級での講座を行った。	【定期講座】休みがちになる方が見受けられる。 【公民館まつり】高齢の方が多いため、準備・運営の負担が大きいという声がある。	実施方法等を工夫し、より参加しやすく、より充実した内容のものにしたい。	○	○	○	○										内容により町会回覧板や小学校等での配布も依頼	生涯学習課、図書館(一部の講座)	公民館クラブ等(公民館まつり等)	1,323	公民館まつりは運営委員会を設けているが、実質は公民館が中心になり運営している。充実した内容にするともっと、もっと参加者が中心となって運営してもらえる方法を検討。	A			○
9	30	桜台市民センター 学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7						市民相互の結びつきと自主的な活動を支援するため、学級講座等を運営する	魅力ある学級講座運営	自主的な学習活動の支援継続、魅力ある学級講座の運営、現代的課題の解決につながる事業運営	○	○	○	○								生涯学習課、各センター	公民館登録クラブ	1,292	自主的な学習活動の意欲を高めていくことや、普段公民館を利用されない層にむけて、夜間の講座の開催を実施した	A			○			

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)								
10	30	山直市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○	○	○	公民館の主催講座においては、受講者アンケート等を実施し、生涯学習課や他の市民センターと調整を図り、市民のニーズに合う講座や時代の変化に対応する講座、学級を開設した。	職員の資質の向上。	利用者団体の高齢化など、時代の変化に対応するよう見直しを図っていく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,559	地域住民が様々な学習を手軽に行える機会や場が提供できている。	A		○
11	30	春木市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○	○	○	市主催の定期講座・単発講座(子ども対象講座、女性向けヘルスアップ講座、発声講座、夏休み子供向け講座、クリスマスコンサート等)・女性学級を開催し生涯学習の機会と場を提供している。	限られた予算で、より多くの世代や市民に公民館を利用してもらうための事業を検討する。	講座内容については、利用者のニーズに添った企画を検討するとともに、地域の特性を活かした事業を展開する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,647	各種講座については、利用者層の拡大につながるような工夫や取り組みが、なかなかできていない。	B		○	
12	30	春木市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○	○	○	第4回公民館分館まつりを、クラブ員による実行委員会形式で取り組んだ。クラブ員の自主性や参画意識を高め、地域住民へは、公民館活動の理解を深めることによって、地域における文化交流、仲間づくりをめざしている。地元幼稚園の参加によって、地域における交流がすすむように期待している。	①実行委員会が運営する力を高める②参加者(各クラブ)の自主的な参画意欲を高める	実行委員会の企画力・運営力を高め、行政主導から市民主導へとシフトしていくことにより、各クラブ活動の本旨である自主運営・文化活動の充実・発展、地域コミュニティの醸成につながる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	公民館まつりの開催は4回目となり、初めて実行委員会形式に取り組んだ。まだまだ、今後、参加者の意識を高める必要性はあるが、まずは組織体制(しくみづくり)を定着させていくことで、事業実施の安定を図るという見通しが持たてた。	A		○
13	30	東岸和田市民センター	学級講座等運営事業	I-2	II-1	II-7	○	○	○	○	公民館定期講座で成人対象の「ワンストロークペインティング」を実施し、年間232名の参加。小学生対象の「キッズアトリエ」は年間222名の参加。公民館登録クラブや定期講座生による「ミニ発表会」では作品展示や、音楽・ダンスの発表等を行い、公民館活動の成果を地域に知ってもらう機会となっている。	市民のニーズに応じた公民館活動を充実していく。	生涯学習課や利用者団体等と協議しながら、運営を行なっていく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	1,050	市民の生涯学習の場、地域コミュニティ活動の拠点としての機能を果たしている。	A		○	
14	30	文化国際課	アートマルシェ	I-2	II-6	IV-1	○	○	○	○	市民が文化芸術にふれるきっかけづくりを目的としたワークショップ。8月(2日間)と3月の2回開催。8月は子ども向け、3月は大人向けといったように、毎回講座内容を変えて実施。(参加者8月161名、3月148名)	講座によって申込み状況にばらつきあり。障害者対象の講座を企画したが定員割れにより開催出来なかったため、ワークショップ内容の見直しが必要か。	文化芸術に触れるきっかけとする事業で、多様なプログラムの充実を図っていく。マンネリ化を防ぐため新たな分野のワークショップを開拓したい。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	170	年々定着してきており、リピーターも多い。より幅広い世代に楽しんでもらえるようなワークショップを今後も企画したい。	A		○

## I-3. 小中学校などの学校教育機関における文化事業の推進・充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)								
15	30	学校教育課	読書活動事業	I-3			○			小中学校における読書活動をさらに推進し、児童生徒の読書意欲、読書週間を形成することや、読書活動の企画や立案、読書活動への支援や相談、学習に関する資料の提供、提案を行う学校図書館コーディネーターの派遣。(小学校週2回、中学校週1回)	限られた予算の中で小中学校への派遣をいかに安定させ充実させていくかが課題	中学校の派遣回数を伸ばしていきたい。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12,842	子どもへの読書活動の推進のため充実に向けているが、人材の確保や限られた予算など工夫をしていく必要がある。	B		○	
16	30	学校教育課	幼・小・中学校所属児童作品展示	I-3			○	○		市立幼稚園、小学校、中学校に所属している児童・生徒の作品を、市役所の廊下に掲示。HPIにも掲載している。	期日通りの回収・返却に時間がかかる。	今後も、子どもたちの作品を掲示していきたい。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	掲示作品を保護者等が観に来てくれる機会が増加している	A		○		
17	30	選挙管理委員会	選挙常時啓発事業 啓発ポスター募集	I-3			○			岸和田市内の小・中学校及び産業高校に対し、明るい選挙啓発ポスターの作品募集を行い、入選作品については府民センタービルに展示している。	岸和田市内の各学校に依頼をしているが、参加する学校にばらつきがある。	今後も継続して事業を行い、明るい選挙に向けた啓発を進める。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	57	毎年多数の応募があり、明るい選挙について推し進めることができている。	A		○		
18	30	人権教育課	人権教育・人権啓発事業	I-3			○	○		* 人権を守る作品展、巡回人権を守る児童・生徒作品展、いじめ問題啓発児童・生徒作品展	子どもたちの人権意識の育成を図る	子どもたちの人権意識の育成を図るとともに、児童・生徒等によるポスターや標語を展示する「人権を守る作品展」などによる啓発を充実させます。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	199	たくさんの市民の方が児童・生徒等の作品の展示を鑑賞して下さっている。大変、児童生徒の作品が素晴らしいとの感想をいただいている。	S		○		
19	30	産業高校デザイン科	岸和田市産業教育フェア(デザインシステム科卒業制作展)	I-3			○			岸和田市立産業高等学校全学科の取組み紹介及び平成30年度に卒業するデザインシステム科の生徒による作品展と舞台発表(ファッションショー)。3年間学んだ集大成として、クラスで統一テーマを決め企画・広報・運営などクラス全員で取り組む。在籍生徒、家族をはじめ、広く社会に向けて鑑賞の場として提供している。	舞台発表の開演前、終演後の観覧者誘導について、よりスムーズに行えるよう、これまでの実施状況を踏まえ改善していきたい。	年々、卒業制作展へ向けた生徒のモチベーションや作品の精度が向上してきている。また毎年初めての試みをしており生徒が学んだ新しい技術や知識などを披露する場所として活用していきたい。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0	企画・広報・運営等すべて生徒が行い、クラス全体がひとつになって進めることができている。作品・舞台発表ともに満足できる結果となった。	S		○
20	30	人権教育課	泉支研 学習発表会	I-3	II-2		○	○	○	各学校の支援学級の児童生徒が劇や歌や運動など今まで学習を行ってきた成果を発表する。	お互いのがんばりを認め合う。他校との交流を図る。	日頃の学習成果を発表することで達成感や自信につながるよう促していく。また、さまざまな学校が集まることで交流が深まるようにする。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	400	一生けん命練習してきた成果を発表できることで、自信につながる。また、たくさんの保護者の方が見に来てくださり、あたたかい言葉かけをしてくださっている。	S		○		

## I-5. 子どもたちの文化活動への育成・支援

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
21	30	文化国際課	チャレンジ支援事業	I-5			○			小・中学校のクラブ活動団体が、コンクールに参加する場合、本番に近い環境を経験することで、日常の練習の成果が本番に活かされるようホールの使用を提供する。平成25年度より実施している。平成30年度利用団体数は4、利用件数は9。	事業の対象がはっきりしているため、通知文を送付し、周知に努めているが、各校の関係者にどの程度周知されているか不明。	コンクールに挑戦する団体が、この事業を活用し、本番で日頃の成果を発揮されたい。								○	年に一度、対象校に案内文を送付					0	本番に近い環境を整え、提供できた。来年度は、使用区分の見直しをし、よりたくさんの学校・クラブが参加できるよう努めたい。	A		○
22	30	文化国際課	育成団体支援	I-5	IV-1		○		○	3つの育成団体(合唱・吹奏楽・演劇)の活動を支援し、団体の質の維持及び向上を図るため、指導者への謝礼を支払う。また、定期発表の場を設け、日常の成果を市民に還元するための公演を実施している。	団体が安定的に活動をしていくためには、一定数の団員数が必要。	各団体の活動が、当課の活動をこえて、市内の各所で展開できるように、団体の存在や活動を広く知ってもらう。	○	○	○										1,440	定期公演時にアンケートを実施し、必ず結果を報告してもらうようにした。団体のレベルを維持していくため、今後も連携を密にしていき、支援を続けていきたい。	A		○	

## I-6. 国際交流の推進

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》			0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
														創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
23	30	文化国際課	青少年海外派遣事業	I-6			○			青少年海外派遣事業として、姉妹都市である米国サウスサンフランシスコ市(SSF)からの青少年を受入れた。SSFの青少年に対し、日本や本市の文化や魅力に触れる機会を提供し、異文化交流を推進している。	両市含め青少年が本市の魅力をいかに伝えるかをテーマに、事業を企画するための仕組みづくり。	青少年である若い世代の切り口で、姉妹都市から来岸した青少年に本市の魅力伝え広げていく。														753	前年度派遣生とともに、今回一般公募で応募した生徒で企画。市の紹介とともに、日本文化の紹介を行った。	A		○
24	30	産業高校学務課	高等学校教育振興事業	I-6			○			生徒10名、引率者4名を姉妹校である韓国ソウル特別市永登浦区漢江メディア高校に派遣。授業体験、フィールドワーク、ホームステイを通じ、親睦を深めるとともに異文化交流を推進した。	生徒数の増員と交流期間・時期を検討。	交流事業の内容を工夫、充実し、継続して実施する。													556	参加した生徒の経験になり満足度は高く、今後も継続して実施する。	A		○	

## 基本目標Ⅱ 輪を広げる

## Ⅱ-1. 発表・鑑賞機会の充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》	0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続						
												創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)											
25	30	市民病院	ロビーコンサートの実施	II-1					市民病院ロビーの空間を使い、主に入院されている患者様およびそのご家族を対象に、演奏会を開催することにより癒しのひと時を提供する。年2回開催。	開催は夏や冬なのでロビーの温度調節を細かく設定する。	鑑賞者により楽しんでもらえるよう、細かな課題を改善しつつ、継続して開催する。															8	院内のあらゆる部署と協力し開催できている。	A						
26	30	市民病院(経営管理課)	ギャラリーでの作品展示	II-1				○	市民病院の廊下にあるギャラリースペースに、就学前児童が作った美術作品を展示。就学前児童の発表の機会であるとともに、来院される方々には子どもの感性が活かされる作品を鑑賞する機会となっている。	展示作品入替え時のスケジュール調整	今後も引き続き展示を続けていく															0	来院された方で、立ち止まって眺めている姿をよくみる。子どもの季節に応じたかわいらしい作品に多くの方が癒されているのではと考えられる。	A						
27	30	自治振興課	平和推進事業 子ども平和映画会	II-1				○	児童及びその保護者に対し、映画を通じて平和の尊さを再確認していただく。今年度は、「この世界の片隅に」を上映し、会場では平和に関するパネル展示を行った。入場者数は758名。	今回は入場者が増えたが、少子化の影響もあってか、例年入場者数の減少がみられる。	今後も映画を通じて、児童や保護者に平和の尊さを再認識していただく事業の一つとして継続し、平和推進を図っていく。														1,688(総額)	上映作品が話題作とのことで参加者数が増えたが、今後は少子化の影響で減少すると思われる。これから若い世代に平和推進をしていく必要がある。	A							
28	30	自治振興課	巡回平和パネル展	II-1				○	市民センター5カ所と市役所新玄関の計6カ所で、「難民」に関するテーマとしたパネル展を巡回した。	市民センターのロビー等に展示しているため、実際の来場者数を把握することが難しい。	市民にとって、より身近な施設で開催することで、多くの市民に鑑賞いただくとともに、非核平和への意識が高揚していく機会としていく。														1,688(総額)	現在も世界で存在している難民問題の資料を展示したため、有意義な展示になった。	A							
29	30	自治振興課	平和推進事業 非核平和資料展	II-1				○	特攻隊員に関する展示(知覧特攻平和会館・鶴野平和祈念の碑宛保存会から借用)、平和バスの事業報告、現物資料、原子爆弾に関するパネル、小・中学生が書いた平和に関する作品等を展示。また、オープニング式典では土生中学校合唱部の合唱、朗読劇(サルビア)、上谷昭夫氏による講演会(鶴野平和祈念の碑宛保存会)を実施。来場者数883名(延べ/5日間)。	非核平和資料展のテーマに苦慮している。	市民が「戦争の悲惨さ」や「核兵器の恐ろしさ」を知り、平和の尊さを認識してもらおう。															1,688(総額)	知覧特攻平和会館所蔵パネル、鶴野平和祈念の碑宛保存会所蔵パネル借用して展示できたため、非常に有意義な資料展を開催することができた。	A						
30	30	人権・男女共同参画課	人権を守る作品展 開催事業	II-1				○	12月の人権週間に向けて、「人権尊重」をテーマにした作品(ポスター、標語)を募集して、入選作品を12月に「人権を守る作品展(会場:マドカホール)」で展示するほか、1月、2月に「人権を守る作品展巡回展示(各市民センター)」で展示。マドカホールでの来場者は平成30年度は1,170名。	子どもは学校を通じて多数出品されるが、市民の作品応募が少ない。	引き続き作品展を開催することにより、人権啓発が図られる。作品応募について、市民協議会人権部会への案内を実施する。												人権協会や人権啓発企業連絡会に周知	人権教育課	岸和田市人権協会		99	作品の制作に取組んでいただき、またその作品を展示し市民の方々に見ていただくことで、様々な「人権」に触れ、大切なことに気づききっかけづくりとなっている。	A					
31	30	文化国際課	岸和田市市展	II-1				○	美術に関する分野(洋画・染織・陶芸・書・日本画・写真・俳画)の公募展を行い、その審査結果を踏まえて、毎年11月に受賞作品のみを集めた展示会を行っている。市展:総出品点数419点、総来館者数2,723人 受賞作品展:出品点数58点、来館者数433人	高齢化に伴う作品と来館者の減少。若い世代の出品数が少ない。	若い世代の出品を促す。															1,600	昨年度より来館者数は減少したものの、概ね見ごたえのある展示となった。	A						
32	30	文化国際課	岸和田市文化祭	II-1				○	自主的に岸和田市民が行う文化活動の成果を発表する機会をつくり、発表者と鑑賞者相互の交流を深めることにより、文化活動に対する意識の高揚と、文化の振興を図ることを目的とする。展示部門:参加団体18団体・出品者数5,033人、舞台部門:参加団体15団体・出演者数1,939人、来場者総数19,244人	参加団体の固定化と伸び悩み。参加者も学生と高齢者で2分化されており、中間層の参加が少ない。	引き続き、教育委員会と連携して、幼児や小中学生の参加を継続していく。中間層の参加を促すために、後継者の育成が必要。											新聞折込	教育委員会	文化祭実行委員会、文化祭サポーター		212	昭和23年から続いている文化祭は、市民の文化活動の成果を発表する場として定着しており、参加団体も多く、一定の成果をあげている。	A						
33	30	生涯学習課	公民館まつり事業	II-1	I-2			○	日頃の活動成果の発表・展示の場、自主的な企画・運営の場や、団体相互及び地域と運営の場や、団体相互及び地域との交流の場、また、来場者に生涯学習のきっかけを提供する場として開催し、あわせて、公民館利用のなお一層の活性化を図る。	実行委員会形式で当課が事務局となり協働して開催しているが、役員の担い手の減少や行政と市民役割分担のあり方が課題である。	公民館まつりのあり方について、平成27年度、28年度に検討し一定の結論を出しているが、今後も引き続き公民館まつりのあり方、内容等について検討する。														36	事業の運営に関しては、実行委員会形式をとり、協議しながら内容を決めていくが、左記課題がある。 一(内訳)ゴミ収集8208円、駐輪場管理委託27,000円(紙等の消耗品は按分不可能)	A							

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
34	30	生涯学習課	フレンドシップコンサート事業	II-1	I-5						青少年音楽団体の研鑽と交流を図り、地域の音楽活動を推進するとともに、青少年文化の向上を図ることを目的とし、6月に浪切ホールにて開催している。参加団体(市内の学校や青少年による吹奏楽・合唱グループ等)で構成する実行委員会が企画・運営を行っている。	実行委員会による自主的、主体的な企画・運営を目指しているが、団体の役割分担の調整が必要。	より一層、参加団体が主体となり、企画・運営ができるようにしていく。	○	○	○	○								フレンドシップコンサート実行委員会	518	実行委員会形式で運営することにより、青少年と成人それぞれの活動団体の交流となり、青少年にとっては、未来の活動の支えとなっている。	A		○	
35	30	文化国際課	マドカ合唱祭	II-1	II-5						市内各所で活動している合唱の団体に、発表の場を提供するとともに他団体との交流を促進し、合唱活動を盛んにする。また、オープニングには一般の個人が参加できる機会を設けている。平成30年度は台風接近による警報発令のため、中学校が参加できなかった。参加団体22団体(470人)、入場者数500人。	事業のPR、観客マナーの向上、出演者の高齢化への対応。開催時期が猛暑であり、台風など自然災害への懸念もあるため開催時期の検討も課題。	事業の内容を工夫、充実していき、合唱祭の活性化を図る。	○	○	○	○								なし	マドカ合唱祭実行委員会	124	事業の運営に関しては、実行委員会形式をとり、協議しながら内容を決めている。委員、また参加団体の意欲を高めていくため、仕組みづくりの強化が必要。	A		○

## II-2. 高齢者、障害者等の文化活動の充実

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
36	30	障害者支援課	地域生活支援事業(ふれあい作品展)	II-2							障害者週間において、障害児(者)の作品を展示する作品展を開催し、障害児(者)への理解を市民に広めるとともに、障害児(者)の社会参加の機会を広げることを目的としている。参加者(出品者)数…(児)567人、(者)6人	休日に開催してほしいとの要望がある。	作品展における作品展示等は、例年通り実施していくこととし、開催日程については今後検討していくものとする。	○	○	○	○								なし	(作品を出品する)市内小・中学校、支援学校	170	作品展の開催に関しては、本課で企画・運営を行っている。作品を展示する際は、本課職員、出品する各学校職員及び障害者により、相談、協力しながら円滑に展示することができている。	A		○
37	30	図書館	障害者サービス事業	II-2							視覚障害者に、年4回「新着図書案内」を録音し、郵送している。視覚障害者及び高齢等により文字を読むことが困難な人には、録音図書・点字図書を貸し出し、また、対面朗読を実施している。身体障害のため来館が困難な人には、資料を宅配又は郵送している。	対面朗読を受ける人が限られている。	視覚障害者、文字を読むことが困難な人の教養・レクリエーション等に資するため、障害者サービスを継続していく。	○			○								なし	岸和田市視覚障害者協会、朗読ボランティアひばり等	401	視覚障害者及び高齢等により文字を読めない人にとって、図書館の障害者サービスは、教養・レクリエーション等のため必要不可欠なものである。	A		○
38	30	福祉政策課	介護予防事業【高齢者趣味の作品展事業】	II-2	II-7						高齢者(岸和田市内に在住する概ね60歳以上の者)の豊かな経験と知識を活かし、生きがいや文化水準の向上、社会参加の促進を図るため、趣味の作品(短歌、俳句、川柳、俳画、書、陶芸、写真、絵画、手芸)を募集し、11月7日～9日の3日間、浪切ホールにて展示を行っている。	限られた予算での事業のため、展示会場の設営準備作業等を外注できず、苦慮している。	更なる世代間交流(特に若い世代)を図れるよう、事業内容を工夫、充実していく。	○	○	○	○								同日程で、市老連主催の「秋の文化祭」を共催	450	幅広く認知された事業であり、継続していくことが必要。	A		○	
39	30	福祉政策課	介護予防事業【生きがいと健康づくり推進事業】	II-2	II-7						高齢者(市老連に加入する単位老人クラブを対象)の社会活動や地域活動、スポーツ・文化・娯楽活動等の健康増進活動の促進を図っている。	趣味の多様化のため、一部では、限定された参加者での活動となっている。	主体的に活動する人員への支援、育成及び世代間交流を図る。	○	○	○	○							市老連及び他の単位老人クラブ	2,990	各単位老人クラブにおいて、低予算のなか、創意工夫を図り実施している。また一部では、世代間交流を目的とした「お餅つき」や「七夕笹飾り」なども実施されている。	A		○		

## II-3. 国内外の演奏家や芸術家による演奏会や展覧会の開催

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
40	30	文化国際課	文化の日の祝典	II-3	IV-2						11月3日文化の日に、本市の文化教育の振興に貢献した方々の功績をたたえ、祝典を開催。1部では功績のあった方々への表彰式、2部では関係者以外も鑑賞できる記念コンサート「旅するマリンバ～音楽のルーツを訪ねて～」を開催。1部出席者数280人、2部入場者数265人。	祝典を広く周知するため、一般の方も関心を持てるような記念事業の企画が必要。	若い方の表彰も増えてきており、熟年の方との文化交流も活発になればよい。また、「文化の日」にふさわしい事業を企画し実施していくことで、文化の推進に寄与していく。												教育委員会	岸和田文化事業協会	309	2部では、マリンバを中心とした打楽器による演奏と、観客参加型のワークショップを行い、大人から子どもまで広く市民に音楽に触れ、楽しんでいただくことができた。	A		○

## II-4. 文化団体への支援

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》					0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
																創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)								
41	30	文化国際課	文化団体支援事業	II-4							○	特定のジャンルに限らずに包括的な取り組みをしている岸和田市文化協会、岸和田文化事業協会の活動を支援し、多くの市民が参加できる取り組みを協同して推進している。	後継者となる若い世代の育成が必要	各文化団体の特色を生かした活動を今後も継続し、団体の活動内容を広く知ってもらおう。	○	○	○	○													2,410	団体活動の一部を支援できた。	A		○

## II-7. 生涯学習の推進と地域コミュニティの活性化

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》					0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続				
																創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)									
42	30	図書館	図書館まつり開催事業	II-7			○	○	○	○	○	年に一度、市民団体と協働で図書館まつりを開催している。図書館が台風21号により屋根被害を被ったため、定例の古本市、お話し会、図書貸出し体験、録音テープ作成体験、同人誌の展示等は行わず、昔ばなし研究家の講演会を開催した。	図書館まつりを担う市民団体の構成員が高齢化している。	図書館まつりの構成内容を、市民にとって魅力ある内容となるよう努めてゆく。	○	○	○	○														0	図書館を利用したことのない市民が図書館に来るきっかけづくりとなっている。	A		○
43	30	図書館	読書会支援事業	II-7					○	○	○	読書会の会員が、一つの図書を読み、意見・感想を述べ合うなどして内容を深く掘り下げている。図書館は、同じ図書が会員に行き渡るよう、岸和田市立図書館だけでまかなえないときは、他市図書館から借り受けるなどして提供している。	読書会の会員が、固定化・高齢化している。	誰もが参加しやすい体制づくりを指導してゆく。	○																0	読書会に資料を提供することで、会員の教養・レクリエーション等に資することにつながる。	A		○	
44	30	生涯学習課	学び舎プログラムまちづくり実践プロジェクト	II-7							○	30年度は対象事業なし																		0		0				

## 基本目標Ⅲ まちの魅力を高める

## Ⅲ-1. 歴史や文化財等への理解の促進と活用

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)								
45	30 観光課	城周辺整備計画推進事業	Ⅲ-1								石畳と淡い街灯まちづくり支援事業により整備された岸和田城周辺地区において、まち歩きイベントなどのソフト事業を実施することで、交流人口の増加による賑わいの創出に取り組んでいる。「おおさか都市魅力・観光ネットワーク会議」へ参加し、大阪府との連携を図っている。	次期岸和田城周辺整備計画の策定	ソフト事業を継続実施するとともに、次期計画の策定については、市庁舎建替えの方向性がある程度見極められた段階で検討していく。												水とみどり課、郷土文化課	岸和田市観光振興協会 大阪府	0	市庁舎建替えの検討が進んでいる中で、本計画にとって大きな位置を占める現市庁舎がどのようになるのかによって、対応が大きく異なるため、現在、計画は休止している。	A			○		
46	30 郷土文化課	郷土資料等展示事業	Ⅲ-1								岸和田城展示室において、郷土の歴史・文化を主テーマとした展示を実施。常設展に加えて、年3回の企画展を開催。	展示内容の充実化	来場者に対して本市の歴史・文化を紹介することで、文化財を通じて本市の魅力を周知し、郷土愛を育む活動を行う。													825	来場者の増加のために、来場者に理解しやすい説明キャプションを作成する等、工夫を行った。事業の充実を図るため更なるPRを実施していく必要がある。	B			○			
47	30 郷土文化課	郷土文化普及事業	Ⅲ-1								市指定史跡義太夫塚古墳に説明板を設置。収蔵品台帳作成業務により、郷土文化課所管の収蔵品の台帳作成および整理作業を行う。	設置した説明板の周知。台帳作成を行った収蔵品の有効活用。	説明板を設置することにより、文化財を周知するだけでなく、観光資源の一つとして活用していく。収蔵品の台帳作成を行い、郷土資料を広く公開し、郷土の歴史をより深く理解してもらえるように努める。													2,411	文化財をさらにPRできるよう、説明板の設置を周知する必要がある。	A			○			
48	30 郷土文化課	濱田青陵賞事業	Ⅲ-1								平成30年度は、弘前大学文学部の関根教授が受賞した。これは、従来多かった東京大学、京都大学の系統とは違う学派の受賞者が選考されたことで、広域にも目が届く公平な賞であることが再確認された。また、受賞者の研究対象であるアイヌと関西の交流をテーマにシンポジウムを開催し、関西にとってアイヌは身近な存在であったことを周知できた。	テーマによって、客数が大きく変化すること。周知対象の拡大	考古学の学術文化賞では最高位の賞であり「考古学の芥川賞」と呼ばれる賞として、現在の認知度、ネームバリューを活かした、観客のさらなる裾野の拡大をめざす。																2,430	岸和田市が誇るべき学術文化賞であり、市の文化水準の向上に貢献している。また、朝日新聞社との協働により紙面提供を受けるなど、非常に低予算で実施できている。	A			○
49	30 観光課	岸和田城管理事業	Ⅲ-1	Ⅲ-4							お城まつりの期間中に野点や邦楽の演奏会を実施。また、天守閣望楼においては、岸和田城ウエディングを毎年実施している。指定管理者の自主事業として岸和田城講座(参加者合計155人)やお城のお絵描き教室(24人)を実施した。	利用者が伸び悩んでいる。施設設備の老朽化が顕著である。	指定管理者と連携し、イベントの企画実施や雑誌やメディア等を活用した情報発信を図り、安定した集客が期待できる施設を目指していく。																26,075 (指定管理料含む)	岸和田城は、本市のシンボルであり歴史・文化・観光の拠点として位置づけられており、関係機関とも連携し、岸和田城の付加価値を高める取り組みを行っていく必要がある。	A			○

## Ⅲ-2. 伝統行事の保存・継承

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続											
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)																
50	30 観光課	だんじり会館指定管理事業	Ⅲ-2								だんじりに関するワークショップや講演会などの開催、「だんじりカット・編み込みスタイル」写真展や「だんじりタール展」を実施し、だんじり祭に関する文化を様々な視点からアピールし、祭り当日だけでなく楽しめるだんじり祭の情報発信に努めた。	入館者数の停滞 施設設備の老朽化	指定管理者と連携し、全国的に知名度のある「だんじり」という他にない資源を最大限に魅力発信し、年中通じて活用できるブランド化に取り組む。																						62,558	入館者数が伸び悩んでおり、だんじり会館の魅力を国内外に発信することで、一層の観光客の誘致に取り組む必要がある。	A			○		
51	30 観光課	だんじり祭支援事業	Ⅲ-2								観光客の受入れ体制として、イラストマップや交通規制チラシの作成や仮設トイレ、臨時駐車場等を設置。観客の安全確保のためのプラスチックフェンスの導入やゴミ問題対策としてクリーンキャンペーンの強化など啓発活動に努めている。	観光客の一極集中化 ゴミ・トイレ・駐車場などの受入れ環境の整備	観光客の受入れ体制を整えるとともに、だんじり祭を側面・後方から支援することによって、明るく楽しい市民の祭りにしていく。																								39,868	伝統的地域文化の継承を図るとともに、市民はもとより観光客に気持ち良く楽しい祭と感じてもらえるよう、関係団体とも連携し、祭の一層のブランド力の向上を目指す必要がある。	A			○
52	30 郷土文化課	文化財保存支援事業	Ⅲ-2								民俗文化財継承のための補助金の交付。市指定文化財である市内6つある社叢の災害復旧に伴う補助金の交付。	少子化に伴い後継者の育成が困難になっている。	指定文化財が後世へ、よりよいかたちで保存・継承していけるように、保存会ならびに所有者への支援を継続していく。																							2,773	所有者との連携が密になった。	A			○	

## Ⅲ-3. 自然環境や景観との調和

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》					0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体					協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続			
																創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)	他団体(団体名等)								
53	30	丘陵地区整備課 丘陵地区整備事業	III-3									本事業では都市・農・自然が融合したまちづくりを推進しており、事業の一環として丘陵地区に生息するフクロウをシンボルとして里山環境の再生保全を目的としてフクロウの森再生プロジェクトを実施している。自然エリアの良好な里山環境の保全と創出を目指して、ゆめみヶ丘岸和田まちづくり協議会と協働で森林レクリエーションイベントを開催した。	・広報活動の強化	継続してイベントを実施することにより、市民の自然への関心を高める。															0	イベントを通じて、取組みの趣旨を伝えることには一定の効果があった。今後は市主導の運営体制から協議会主体で取組みを進めてもらえるような組織体制の構築が必要。	A			○	
54	30	環境課 環境保全事業	III-3									・環境フェアの開催 環境の保全に関する取り組み等の展示を実施することにより、来場者に啓発を行った。参加協力団体10団体、来場者数はスタッフ60名を含み約3800人。	環境保全に取り組んでいる団体を把握すること。開催地の選定。	環境に対する市民意識の高揚を促すため、今後も多岐にわたる分野での啓発を実施したい。	○	○	○	○							郷土文化室	大津川水域水質保全対策協議会、きしわだ自然環境クラブ、岸和田市消費生活研究会、神於山保全くらぶ、岸和田野鳥クラブ、大阪湾環境保全協議会、岸和田市漁業協同組合、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、岸和田市食生活改善推進協議会、シャープ社友会チーム神於山	347	初めて開催する商業施設でしたが、集客力があるので多くの来場者に啓発ができた。今後も事業の継続が重要。	A			○			
55	30	環境課 自然環境保全事業	III-3									里山保全のボランティアに関心のある人に対し、里山及び里山保全活動に関する知識及び技術の基礎を講習することで、里山保全活動の担い手を育成する。	年々、講座参加者が減少しており、広報きしわだ等だけの募集以外も視野に入れる必要がある。	里山保全活動の担い手が増え、活動の活性化を目指す。													243	今後も市民、ボランティア、行政が協働で自然豊かな里山を維持していく必要がある。	A			○			
56	30	都市計画課 歴史的景観保全支援事業(家屋修景助成)	III-3									住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区における家屋修景に対して支援を実施。	建築基準法の形態規制を遵守しつつ、本町の歴史的まちなみの特徴を備えた建築物に調和させることが困難な状況にある。	歴史的まちなみやこれと一体となり歴史的景観を形成している環境を保全し、住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区において家屋修景への支援を継続して行う。											なし	歴史的町並み保全基金運営委員会	5,000	歴史的まちなみ保全地区において家屋修景を行うことにより、歴史的景観を形成している環境を保全し、住みよい文化的で潤いのあるまちの実現に寄与することができている。	A			○			
57	30	都市計画課 景観形成事業	III-3									「ここに残る景観資源発掘プロジェクトの実施」住みよい文化的で潤いのある美しいまちを創出するため、岸和田らしい景観を保全形成を目指す啓発事業の取組の1つとして、ここに残る景観資源発掘プロジェクトを実施。平成30年度は、「まち景観」について、応募件数41件の中から、まちかど審査(市内8か所延べ1503人)により9箇所を景観資源として指定し、PRを実施。	より良い景観形成に資する取組について啓発が十分であるとは言えない。	様々な情報ツールを活用して、広報を強化するとともに、観光・教育や環境部局との連携を図り、幅広い年齢層への啓発を図っていきたい。										テレビ岸和田番組表(Vision)	各市民センター、図書館、産業高校学務課	和歌山大学、観光ボランティア協会、商工会議所、テレビ岸和田	1,347	応募件数は開催年度によってばらつきがあるが、まちかど審査の参加人数は年々増加しており、今後も啓発に努めたいと考えている。	A			○			
58	30	都市計画課 街づくり支援事業	III-3									日常生活の中で誰もが利用する「駅」周辺を、地域住民を含めた関係者(鉄道・バス事業者、商店街、学校等)と行政が協働して「美しく個性がきらめき、魅力ある空間に再生」し、まちの活性化につなげていくプロジェクトを実施している。4月に「ハンキングバスケット講座」を行い、作成したバスケットを約1ヶ月育て、5月の「ガーデニングショー」で展示し駅周辺の活性化を促進している。	地域住民の参加者の高齢化が進んでおり、世代交代を進める必要がある。また、運営資金が減少してきている。	地域住民へのPRをより行い、参加者の世代交代を進める。市民団体等と運営資金等についても話し合いながら、地域住民の交流の促進や、駅周辺の活性化を進めていく。											市民課	旭・太田市民協議会、旭校区連合町会、太田校区連合町会、リハープ全体管理組合、大阪府岸和田土木事務所	1,445	ハンキングバスケット講座では、地域住民同士の交流を促進し、また、小中学生連の文化事業の充実にも寄与している。ガーデニングショーでは駅周辺の活性化に寄与し、毎年楽しみにしている住民も多くなる。	A			○			
59	30	郷土文化課 自然資料館普及・展示事業	III-3									身近な自然の多様性を学び、郷土の自然と自然保護への理解を深め、地球環境や自然科学についての関心を高めるため、野外観察会や室内講座、展示等の事業を多数実施した。本年度は船の科学館による「海の学びミュージアムサポート」を受け、大阪湾の多様性や環境を学ぶ貸し出し教材とプログラムの開発および研修会や市内小学校への出前授業を実施した。	・就学前児童向けプログラムの拡充 ・学校園との連携強化 ・常設展示の更新とそれを活用したプログラム開発 ・実施効果の検証	事業内容の質的向上および就学前児童向けプログラムの充実に取り組み、自然環境や科学技術、博物館に関心を持つ市民の増大を図る。																8,390	市民向けの展示や普及イベント等を豊富に実施するとともに、それらを他の博物館やNPO等と協働して取り組むことで、内容的質的向上とネットワークの強化につなげている。	A			○
60	30	環境課 まちを美しくする市民運動推進事業	III-3	II-1	I-5							まちの美化、青少年の健全育成、緑の保全及び推進について標語・ポスターを募集。標語188点、ポスター410点の応募があり、標語20点、ポスター40点を選定作品とし、表彰及び展示を行った。	応募校に片寄りが見られる。	市内各校から広く応募できるように工夫しながら、応募数が増えるようにしたい。																381	市内の各団体に組織されている協議会の取り組みが理解され、市民に広がることを期待するためには有意義な事業であると認識している。	A			○
61	30	都市計画課 歴史的景観保全支援事業(団体活動支援)	III-3	III-5								住みよい文化的で潤いのあるまちを実現するため、歴史的まちなみ保全地区において景観啓発に寄与する団体(本町のまちづくりを考える会)の活動に対して支援を実施。本町のまちづくりを考える会では、4月に「にぎわい市」を開催したり、随時歴史講座等のイベントも開催している。	支援している団体における役員の高齢化が進んでおり、世代交代を模索するが円滑な役員就任がなされていない。	自主運営を基本としつつも、担い手育成や世代交代に関する情報を収集するなど、きめ細やかな情報提供を実施すべき。																100	対象団体の支援を実施することにより、歴史的まちなみ保全地区における景観啓発が実施され、住みよい文化的で潤いのあるまちの実現に寄与している。	A			○



## Ⅲ-5. イベントを活用した魅力あるまちづくり

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢者	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続	
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)
62	30 企画課	中心市街地活性化事業	III-5								岸和田市中心市街地活性化基本計画に沿って、各種事業を推進している岸和田TMO(商業まちづくり機構)、商工会議所等との共同事業として開催するイベントへの参加。	岸和田TMOとの関わり方や、部会事務局としての役割について整理が必要。	関係各課と連携し、中心市街地の活性化が図れるよう支援していく。	○	○	○	○						産業政策課・都市計画課	岸和田商工会議所	0 (TMO支援事業として産業政策課の支援有)	各種事業について、庁内関係部局での連携しているところではあるが、より効果的な取組を実施するため、更なる連携強化が必要。	B			○	
63	30 広報広聴課	シティセールスプラン推進事業	III-5								市民を対象にSNSを活用した市の魅力発信を目的に、「カメラ講座&撮影会」を実施。29人参加。また、インスタグラムによる「第1回きしわだフォトコンテスト」を実施。応募件数は660件。	市民によるインスタグラムへの投稿の拡大。講座については、講師の確保。フォトコンテストについては、事業の周知及び入賞作品の選考。	フォトコンの継続により、インスタグラムによる本市の魅力発信の拡大	○	○	○	○									3,312	第1回フォトコンは3カ月間の応募期間で実施したが、660件もの応募があった。入賞作品の選考に時間を要したが、応募時期や周知方法を検討し、継続。	A	○		○
64	30 自治振興課	市民活動団体支援事業	III-5								市民フェスティバル・中央公園にて開催。参加団体に模擬店、展示、フリーマーケット、地場産業振興等の場を提供し、岸和田市民相互のふれあいの場とし、市民参加の祭りの場として豊かで暮らし良い町づくりに寄与し、地場産業振興に貢献することを目的とする。	事業を運営している実行委員会メンバーの高齢化が進み、担い手の育成が必要。	事業の内容を工夫、充実し、活性化を図る。	○	○	○	○							岸和田市民フェスティバル実行委員会	1,700	事業の運営、及び活動に対して補助金交付を行っており、概ね適正に活用している。	A				○
65	30 農林水産課	農業振興事業	III-5			○	○				市民の農業に対する理解や認識を深め、農業振興に資するため農業まつりを開催する農業者の表彰、展示即売会、試食会、ステージ企画等を行い、農林水産物の紹介、農林水産物の啓発と都市住民との交流等の機会の提供	・実行委員会と運営委員会で開催しているが、当日の参加と即売品の生産に協力しているが、まつりの準備等の体制協力が得にくい。	企画内容の工夫などをしていき、農業まつりの活性化を図る。		○	○	○				○	農協の広報紙	JAIずみの・大阪府・農業委員会・農業研究クラブ協議会・果樹振興会・林業活性化地区協議会・春木漁業協同組合他21団体	2,000	岸和田市において農業は主要な産業のひとつであり、その振興は今後益々重要である。参加団体の意欲を高め、より協働できる仕組みづくりが必要。	A				○	
66	30 産業政策課	港振興協会助成事業	III-5								①「第66回岸和田港まつり」花火大会は諸事情により中止。 ②「巡視船体験航海」を開催。市民約100人が乗船。	民間団体と連携したイベントの開催。協賛企業の新規開拓と個人寄付の増収。経費の削減。	①令和元年度は打上げ場所を変更して開催。引き続き実施手法等含め検討していく。 ②令和元年度は巡視船派遣が叶わず中止。令和2年度は引き続き巡視船の派遣を要請する。										なし	なし	389	港まつりは岸和田の夏の風物詩として定着しており、集客力のある人気の事業である。体験航海も毎回定員を大幅に上回るたくさんの応募があり、抽選となっている。	A				○
67	30 観光課	観光振興事業	III-5								お城まつり、菊花大会、もみじまつりといった季節に応じた観光イベントを実施した。また、情報発信の強化として、本市の観光施設やイベント情報などを提供するスマートフォン向けの無料アプリ「祭都きしわだnavi」の提供や観光マップを作成し、観光客の利便性及び周遊性の向上に取り組んだ。	魅力ある地域資源の利活用が不十分である。プロモーションをはじめとする効果的・効率的な情報発信が出来ていない。	平成28年度に策定した「第2次岸和田市観光振興計画」に基づき事業を推進していく。	○	○	○	○							岸和田市観光振興協会 岸和田商工会議所	21,451	近年の外国人観光客の増大など、観光を取り巻く状況は著しく変化しており、時流に対応した観光振興施策に取り組む必要がある。	A				○
68	30 産業政策課	商工業振興事業	III-5	III-6							①地場製品や特産品の展示・販売を目的に、産業フェアを開催。来場者数は約7,000名、出展事業者数は37であった。 ②「演歌力」の発信を目的に、きしわだ歌謡祭を開催。入場者数は2,413名であった。	効果的な集客やPR手法の検討	より多くの市民に地場産業をPRするため、集客等に注力しながら、事業を実施する		○	○	○					岸和田商工会議所広報誌、HP等	なし	岸和田商工会議所等	4,200	地場産業のPRに、一定の効果があったと考える。	A				○

## Ⅲ-6. 伝統工芸品の価値発信、新産業の創出

年度	担当課	事業名	《基本目標・各方向性》				0歳～就学前	小学生以上	妊産婦	障害者・高齢者	その他	実施内容	課題	今後のビジョン	文化活動の形態					広報活動の媒体				協働した団体		事業費(千円)	自己評価	自己評価	新規	継続		
															創造	発表	鑑賞	参加	その他	広報きしわだ・市HP	その他のHP・SNSなど	地域情報紙	ちらし・ポスター類	その他	市(担当課以外の課名)						他団体(団体名等)	
69	30 産業政策課	岸和田ブランド事業	III-6								岸和田らしさを備えた優れた産品を岸和田ブランドとして認定し、情報発信や販売促進を推進することで岸和田市の知名度向上を図っている。イベントでは高松宮記念杯岸和田競輪G1、コープフェスタin岸和田等に出展した。体験の場として、認定品の工場を巡る工場見学ツアーと認定品を使った料理教室を開催した。また、岸和田ブランド専用ホームページを作成し、PRの強化に努めている。	岸和田ブランドのロゴマークの周知	岸和田ブランドのさらなる認知度向上のために施策を展開していく。		○	○	○	○					テレビ岸和田市政だより	広報広聴課	岸和田商工会議所、大阪ガス株等	1,434	岸和田ブランドの認知度のさらなる向上のため、多くの人の目に触れるように各種イベントへの出展を行っている。	A				○

